

くす通信

第138号
2012年8月1日

国立病院機構 熊本医療センター発行

めまいの病気について めまいをおこす薬と めまいを治す薬について



花：あさがお

「くす（樟）」の由来について

くす（樟）は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。

また、くすし（薬師）とは、医師のことを指し、くすしぶみ（薬師書）は医術に関する書物のことを言います。

本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

めまいをおこす薬と めまいを治す薬

薬剤師 平池 美香子

めまいをおこす薬



めまいの原因は様々ですが、薬が原因となっている場合もあります。

めまいを起ししやすい薬としては、降圧剤、抗てんかん薬、抗不安薬、抗うつ薬、抗パーキンソン病薬、睡眠薬などがあります。

また、市販の風邪薬などでも副作用で、めまいがおこる場合があります。

薬を飲んでいて、めまいがおきた場合は、原因の一つと考え、医師または薬剤師にご相談ください。

めまいを治す薬

めまいの治療において、薬物療法は、病気の原因の治療のため、もしくは、症状をやわらげるために行います。症状に応じて、以下のような薬が使われます。

抗めまい薬

内耳の血流を増やし、めまいを改善します。
ジフェニドール塩酸塩（セファドール®）、ベタヒスチンメシル酸塩（メリスロン®）dl-イソプレナリン塩酸塩（イソメニール®）など

吐き気止め

めまいに伴う吐き気や嘔吐を抑えます。
ドンペリドン（ナウゼリン®）、メトクロプラミド（プリンペラン®）、ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ジプロフィリン（トラベルミン®）など

抗不安薬

めまいに対する不安を取り除きます。
アルプラゾラム（コンスタン®）、ロフラゼパ酸エチル（メイラックス®）など

浸透圧利尿薬

内耳を満たす液体（内リンパ）の過剰によるむくみを軽減します。
イソソルビド（イソバイド®）など

ビタミン剤

末梢神経の働きを改善します。
ビタミン B12（メチコバル®）、ビタミン B1・B6・B12（ビタメジン®）など

脳代謝改善薬

脳のエネルギー代謝を改善し、末梢神経の働きを改善します。
ATP（アデホス顆粒®）など

末梢血管拡張薬・血流改善薬

末梢血管を拡張させて血流を増やします。
カリジノゲナーゼ（カルナクリン®）など

自律神経調整薬

自律神経の乱れを改善します。
トフィソパム（グランダキシン®）など

副腎皮質ホルモン（ステロイド）

神経の炎症を改善します。
プレドニゾロン（プレドニン®）、ベタメタゾン（リンデロン®）など

いずれの薬を使用する場合も、用法・用量を守り、また、自己判断で中止することなく、きちんと飲んでいくことが大切です。

薬について、何か不明な点や気になる点があれば、医師または薬剤師にお尋ねください。

診療科

■ 総合医療センター	総合診療科、血液内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科
■ 消化器病センター	消化器内科
■ 心臓血管センター	循環器内科、心臓血管外科
■ 脳神経センター	脳神経外科、神経内科
■ 感覚器センター	眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科
■ 画像診断・治療センター	放射線科
■ 救命救急センター	救急科
■ 精神科	■ 小児科 ■ 外科 ■ 整形外科
■ リハビリテーション科	■ 泌尿器科 ■ 産婦人科
■ 歯科口腔外科	■ 形成外科 ■ 麻酔科 ■ 病理診断科

🕒 診療時間 8:30～17:00

🕒 受付時間 8:15～11:00

🕒 休診日 土・日曜日および祝日

急患はいつでも受け付けます

〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5

TEL 096 (353) 6501 (代表)

FAX 096 (325) 2519

H P <http://www.nho-kumamoto.jp/>

耳鼻咽喉科

当科では耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般を取り扱っています。開業医の先生方よりご紹介いただき必要により入院・手術を行っています。鼻出血や“めまい”などの耳鼻咽喉科救急疾患にも救命救急センターの医師の協力により対応しています。現在常勤医は一人ですが、大きな頭頸部手術では関連科の医師と協力して行っています。手術は慢性中耳炎などの耳科手術から副鼻腔炎に対する鼻科手術、さらには扁桃摘出術や、口腔・舌疾患から声帯ポリープなどの喉頭疾患に対するレーザー手術、頸部疾患（唾液腺腫瘍、甲状腺腫瘍など）に対する頭頸部外科手術まで幅広く対応しています。悪性疾患の治療も行っていますが、再建手術の必要な進行癌は大学病院を紹介しております。

めまいの病気

耳鼻咽喉科医長

上村 尚樹



めまいは耳鼻咽喉科の日常診療でもよくみられる症状で、当院にも多くの患者さんが救急車で搬送されます。特に回転性めまいという、あまりにも激しく、嘔吐なども伴うので、脳出血など脳に何か障害がおきたと思う方も多くいらっしゃると思います。当然まず念頭におかなければならない症状に脳の障害がありますが、実はめまい全体の5%に過ぎません。60%は耳が原因でおこるめまい（耳性めまい）なのです。またひとことでめまいといっても、ぐるぐるまわるようなめまいなのか、ふわふわするめまいなのか、はたまた目の前が真っ暗になるようなものか、意識を突然失うようなものかなどさまざまです。ここでは耳性めまいについて説明します。

（主な耳性めまいの特徴）

- ・激しい回転性めまい（天井がぐるぐるまわる、激しい）
- ・眼振（特徴的な目の動き）を伴う
- ・吐き気、嘔吐を伴う
- ・蝸牛症状（難聴、耳鳴り）を伴うことがある
- ・めまいの持続時間は数秒から数日
- ・頭痛、手足のしびれ、目の前が真っ暗になることはない

（主な耳の病気）

- ・〈メニエール病〉：耳鳴り、難聴、回転性めまいを主な症状とする病気。内耳が腫れることでおきる。めまいがおきる前後で蝸牛症状の増悪がある

ことが多い。原因は不明。

・〈良性発作性頭位めまい症〉：寝返りや寝起きなど頭の位置を変える際におきる回転性めまい。数秒～数十秒でおさまるが繰り返す。蝸牛症状は伴わない。三半規管内に耳石が浮遊しておきるといわれている。めまいを繰り返すことで症状が軽快する。耳鼻科を受診するめまい疾患のなかで最も多い。

・〈前庭神経炎〉：かぜをひいた数日経過した後に突然激しく生ずる回転性めまいが特徴。このめまいは数日続く。蝸牛症状は伴わない。

（治療）

・〈メニエール病〉：利尿剤（尿を促す薬）、安静、減塩食、まれにステロイド

・〈良性発作性頭位めまい症〉：めまいをわざと頻回におこす、Epley法など、頭を動かす理学的療法。内服薬は効果的なものは少ない

・〈前庭神経炎〉：安静、まれにステロイド

これに対して

（脳梗塞、脳出血など脳からのめまい（中枢性めまい）の特徴）

- ・ふわふわするめまい（浮動性めまい）雲の上を歩いているような……..
- ・眼振はみられない
- ・吐き気、嘔吐は伴わないことが多い
- ・蝸牛症状は伴わない
- ・めまいはだらだらと続く
- ・頭痛や意識障害、手足のしびれを伴うなどです。

以上のような特徴はありますが、時に回転性めまい、嘔吐で小脳出血など中枢性めまいのこともありますので、上記症状を認めた場合は耳鼻咽喉科、あるいは神経内科専門医の診察を受けることをおすすめいたします。